

早稲田大学 文化構想学部 国語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、現古漢1問)
難易度	昨年比、やや難化

〔大問別講評〕

(一) 評論文。「近代日本の国語国字問題」について。

出典:A:イ・ヨンスク『「国語」という思想』。

B:前島密『漢字御廃止之議』。

《本文字数:約 4800 字＝昨年より約 1000 字増加。設問数:7＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【空欄補充】「体系」と「規範」との対比を捉える。空欄 I は、文後半の「「なにが実現されるべきではないか」を定めるのみ…」から判断できる。
問二	やや易	【空欄補充】空欄 X と同段落の「文字は…真の知識の対象ではなく…」から判断する。紛らわしい選択肢はないだろう。
問三	標準	【脱落文挿入】文章 B の最終段落に脱落文と同じ内容がある。
問四	標準	【傍線部理解】傍線部 a のためにすべきこととして前島が考えたこととは「漢字を廃止する」ことである。文章 B の第三文にある。ただ、同文は文章 A にも引用されていることが少し気にかかるが…。
問五	やや易	【傍線部理解】傍線部 イ を含む「成るべく簡易なる文字」とは、漢字ではなく仮名字であることは容易に判断できる。
問六	標準	【主張の理由理解】イは1～2行、ロは2～5行、ニは10行、ホは15～18行から、それぞれ読み取れる。ハは文章 B からは読み取れない。
問七	標準	【内容合致】ロは文章 A の37～45行に、へは文章 B の18～23行に、それぞれ合致する。他の選択肢の消去も難しくはない。

(二) 評論文。「翻訳と比喩」について。

出典:マイケル・エメリック『てんてこまい 文学は日暮れて道遠し』。

《本文字数:約 2300 字＝昨年より約 400 字減少。設問数:7＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問八	やや易	【脱落文挿入】脱落文が直前の内容を否定していることから容易に判断できる。
問九	やや易	【空欄補充】空欄 I を含む文は、直前の一文の言い換えである。
問十	標準	【理由説明】「言語と翻訳」の場合が直前の内容と同じ点は、前段落第二文の「わからないから、比喩に頼ってわかったつもりになる」点である。イは「考えても仕方のない比喩」が不適切。
問十一	標準	【空欄補充】「敷衍」(＝意味をおし広げて易しく言い換えること)を知っていたか。
問十二	標準	【理由説明】直後の「翻訳」の場合との対比から考える。紛らわしい選択肢はないだろう。
問十三	標準	【傍線部説明】傍線部 C 自体から考える。消去法が有効だろう。イも傍線部 C から少しずれていると思われるが、他の選択肢は明らかに不適切である。
問十四	やや易	【漢字書き取り】いずれも易しい。確実に取りたい設問である。

〔大問別講評〕

(三) 甲＝現漢融合文。「仏教における聖者」について。

出典：甲＝船山徹『仏教の聖者―史実と願望の記録』。

乙＝未詳『栄花物語』卷三十「つるのはやし」。

《本文字数：合計約 4410 字＝昨年より約 947 字増加。設問数：10＝昨年と同じ。》

小問	難易度	コメント
問十五	標準	【理由説明】本文冒頭から傍線部を含む段落の末までの内容から判断する。
問十六	やや易	【読み下し文】傍線部の「無」「令」から、禁止形・使役形を見抜く。
問十七	標準	【空欄補充】「嗅ぐ」の意の文字を探す。67行目に「聞香気芬烈」とある。
問十八	やや難	【傍線部理解】傍線部の「轅」「轂」から車の話だと見抜き、ここが尊敬を一身に集めていた僧の葬儀の場面であることから判断する。
問十九	やや難	【傍線部理解】ニがやや紛らわしいが、道長が亡くなったことに焦点がおかれているので「聖者性」を示しているとは言い難い。
問二十	標準	【傍線部理解】重要古語「おこたる」に着目する。直前の「されど」が前の内容を広く受けている点にも注意。
問二十一	標準	【傍線部説明】傍線部の「仏」が道長の比喻であることを見抜けたか。
問二十二	標準	【敬意の対象】いずれも傍線部の前の文脈から判断できる。
問二十三	やや易	【文学史】ニは『古今和歌集』。平安時代前期の勅撰和歌集である。
問二十四	標準	【趣旨合致】イは甲の15～18行目、へは乙の最終段落に合致する。

〔総合コメント・今後の指針〕

全体の難易度は昨年よりやや難化した。本学部は、2020 年に大問二で 60～80 字の記述問題を、昨年に大問一で 20～25 字の記述問題を出题していたが、今年は出題されなかった。

大問一は、例年通りの二つの文章を並べる形式である。他の大問と比べると、解くのに時間がかかるので後回しにして、大問二と大問三を解き終えてから取り組んだほうがよいだろう。大問三の甲では現漢融合文が出題された。

昨年同様、制限時間内に無理なく解ける分量といえる。高得点勝負になるかもしれない。

大問一は、「近代日本の国語国字問題」についての評論文。本文字数が約 1000 字増加したことに加えて、Bの文章がやや読みづらく、昨年よりやや難化したといえる。

大問二は、「翻訳と比喻」についての評論文。昨年よりやや易化した。高得点をとりたいレベルだ。

大問三は、「仏教における聖者」についての現漢融合文とそれに関わる古文。難易度は昨年よりやや難化した。基本・標準レベルの設問は、しっかり得点しておきたい。